

2016年10月2日

福音書からのメッセージ

主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。

(ルカによる福音書 17章 6節)

「わたしどもの信仰を増してください」、今日の箇所の冒頭で、弟子たちはこのようにイエス様に頼みます。イエス様と弟子たちは、エルサレムへと向かって歩いていました。イエス様はすでに二度、ご自分の受難を予告されており、その道行きは十字架に向かうものだど誰もが気づいていました。十字架、それは当時のユダヤ人にとっては死刑の道具以外の何物でもありませんでした。そして十字架を背負って歩くことは、死刑執行の場所に歩いていくことを意味していました。

十字架へと向かうその途中で、イエス様は弟子たちを教えていきます。しかしその一つ一つの教えは、弟子たちに対して「こんな自分でいいのだろうか」という思いを持たせるものでしかありませんでした。そしてイエス様の命じることを何一つできない自分を知ったときに彼らがとった行動は、イエス様に信仰を増してほしいと頼むことでした。

この弟子たちの気持ちが、わたしにはわかるような気がします。例えばこのようなイエス様の教えがあります。「悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい」。果たしてわたしには、そんなことができるのだろうか。実際に頬を打たれなくても自分が嫌な思いになるような言葉を掛けられたときに、わたしは相手に対して左の頬を向けるような態度で接することなどできるのかと思うのです。そうではなく相手の右の頬も左の頬さえも、打ち返したいと



思ってしまう自分がいます。そのときに自分の信仰のなさを感じるのですね。

イエス様はその弟子たちに、「からし種一粒ほどの信仰があれば」と返します。

「あなたたちは信仰

というが、からし種ほどのちっぽけな信仰すら持っていないのではないかと」言われるのです。信仰とは神さまからの恵みに対する応答です。神さまがまず与えてくださったから、信仰が生まれるのです。神さまから素晴らしいものをいただいたことに感謝して、神さまに対して心に向けることが信仰なのです。

弟子たちには、神さまからの恵みがなかなか理解できなかったのかもしれない。しかしイエス様の十字架を経て、十字架につけられ復活されたイエス様こそが、神さまから与えられた一番のお恵みだということに気付かされたのです。復活のイエス様が目の前に現れて初めて、彼らは神さまに対して心から応答できました。つまり本当の信仰を持つことができたのです。

わたしたちも同じです。神さまが与えてくれた大きな恵みにわたしたちが気づかされるときに、わたしたちは神さまの方に心向き直すことができます。神さまから頂いた愛を知り、応答する。それが信仰なのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>